

近年、修学旅行をはじめとする教育旅行は、訪問先の地域の歴史や文化、自然、景観ほか、そこに住む人々との交流を目的とした形態に変わってきている。とりわけ農業体験を希望する学校が増えてきており、中でも、ありのままの農村生活を体験する「農



## 修学旅行で需要高まる農村生活体験 東川で受け入れ10年、体制を確立

家民泊（農村ホームステイ）の需要が高まっているという。

東川町では2005年から修学旅行での日帰り農業体験を受け入れ、今年で10年目を迎える。同町の体験型観光コーディネーター会社（有）アグリテックが中心となり取り組んでいるが、この10年の間に東川町以外でも受け入れ地域は増え、上川管内で一度に300人規模の生徒を受け入れることができる体制が確立した。

これに対して農家民泊の受け入れ農家は、東川や旭川、愛別などの地域に限られ、一度に受け入れられる生徒の数は80人程度にとどまり、今後の課題となっている。

05年から農業体験を受け入れる東川町の宇佐見昇さんは、上川管内の「農家民泊」営業許可取得第1号農家（民泊施設名は「息抜きハウス」）。宇佐見さんは「お客だけでなく、お客扱いしない。自然体で受け入れた方がこっちもラク。別れる時に必ず言うのが『昨日泊まったところはイエスカノー（農家）』とジョークを交えて話す。

イキイキと農業体験する修学旅行の生徒たち



バーベキューを囲んで歓談のひとつも